

正宣寺前坊守 法名 宝珠院釈尼春圓 俗名 大野麗子 行年七十八歳の通夜及び葬儀には、お忙しい中、又お寒い中を遠近各地より多数の皆様方のお焼香を頂き、誠に有難うございました。

又、多数の弔電、ご香資を賜り、誠に有難うございました。

前坊守は、七十七年前、香川県のこんびらさん(金刀比羅宮)の南の山奥で生まれました。私も同じ場所で生まれましたが、小学校四年生の時、大阪の伯父の家に養子に入り、成長致しました。

適齢期になり、仲人や周囲の人々の仲介で唯一度の見合いをしただけで、三カ月後には結婚致しました。それ以降、喧嘩の一つもすることなく、平凡に早五十六年が経ちました。

その間、二十五年前に宗教法人正宣寺を設立するにあたっては、大阪府庁との折衝で大変苦勞致しましたが、これだけが苦勞と云えば苦勞のようなものでした。

前坊守は骨髓腫というガンの一種に侵され、三年から五年の余命との宣告を受けましたが、入院を繰り返しながら、それから六年余りと二年程長く生き長らえさせて頂きました。

蓮如上人の「朝には朝顔ありて夕には白骨となれる身なり」とのお言葉がまさにその通りであることを痛切に感じております。

皆様とのこの世でのご縁が尽きると共に、阿弥陀様の本願のもと、既にお浄土に生まれさせて頂き、そしてお浄土に生まれさせて頂きましたものの、今は既に此の世に還り、私達を救うべく阿弥陀様のお手伝いをしている事と思えます。

永らくのご厚情を厚く御礼申し上げます。本当に有難うございました。

平成二十三年十二月十二日

喪主 正宣寺前住職 大野正英